

神々の国しまね実行委員会のメッセージ

平成24年1月

神々が織りなす物語

2012年（平成24年）

日本最古の歴史書「古事記」が編纂されてから、1300年を迎えます。

「古事記」は上・中・下巻の三巻から成っていますが、その上巻（かみつまき）は、日本のはじまりの物語。

日本列島の成り立ちと国造りが語られ、国譲り、天孫降臨を経て、神武天皇誕生までの日本の「神話」が記されています。

神々が織りなす、日本のはじまりの物語。それは、壮大なスケールと躍動するダイナミズムにあふれ、物語として力強い魅力に満ちています。

また、登場する神々も、とても大らかに喜怒哀楽に富んでおり、現代社会に生きる私たちを惹きつけてやみません。

その日本神話の、重要な舞台が「しまね」です。

神話の魅力の再発見

「パワースポット」や「縁結び」といったテーマで、近年、島根県内の神話ゆかりの地が、さまざまなメディアを通して取り上げられるようになりました。

「無縁社会」と言われる現代において、人と人との絆や精神的な安らぎが求められているからでしょうか。

神在月（かみありづき）に八百万（やおよろず）の神々が全国から集まる「出雲大社」、日本初之宮「須我神社」、縁結びゆかりの地「八重垣神社」、スサノオ終焉の地「須佐神社」、願い石・叶い石「玉作湯神社」などなど、神話ゆかりの地に全国から多くのお客様が訪れていらっしゃいます。

神話とは、世界の起源などを記した民族の古（いにしえ）の物語であり、世界の各地域で大切に語り継がれてきたものです。それぞれの民族・地域ごとに豊かな内容をもっており、民族の多様性や人類の共通性などを知ることができる貴重な伝承といえます。

一方、わが国では、教育における歴史的経緯もあって、日本の神話を知らない人々が国民の多くを占めるようになっていきます。

そのような中、昨年、小学校の教科書に「因幡の素兎（いなばのしろうさぎ）」など神話があらためて登場することになりました。子どもの頃から神話に親しむことは、日本文化の源流に触れる経験を通じて、豊かな心を育てることにつながるのではないでしょうか。

長い歳月を経て、ようやく神話の魅力が注目されようとしています。

古事記編纂から1300年の節目を迎えようとする今、私たちは、神話の重要な舞台となった「しまね」の地において、国内外の多くの方々へ神話の魅力を体感していただく機会を提供したいと考えます。

ニュートラルな立ち位置

神話とは、前述したとおり、世界の起源などを記した民族の古（いにしえ）の物語であり、世界の各地域で大切に語り継がれてきたものです。それぞれの民族・地域ごとに豊かな内容をもっており、世界の神話の中で日本神話を比較することにより、民族の多様性や人類の共通性などを知ることができます。

「古事記」等に記された日本の神話は、学術分野でも重要な研究対象となっており、その意義・解釈等をめぐって様々な学説が提起されています。

一方、かつて皇国史観による国威発揚に用いられた歴史的経緯もあって、第二次大戦後は、広く一般の人々に親しまれるものであったとは言えず、今日もなお、新しい時代における位置づけが十分確立されているとは言えない面があります。

したがって、行政として神話を取り上げる際には、特定の考え方や学説に偏ることなく、それぞれの論拠や出所、発信者等を明らかにして、ニュートラルな立ち位置から諸説を並列的・列記的に取り扱うように努める姿勢が求められます。

神話への愛着と誇り

そうした前提に立って、神々の国しまね実行委員会は、県民のみならず国内外の多くの方々に、神話の魅力を知っていただきたいと考えます。

また、神話の重要な舞台が「しまね」であったということを県民自らが再発見し、その魅力を磨き上げてお客様を「おもてなし」することが、ひいては地域への愛着と誇りを確固たるものにしていくと考えます。

私たちは、このような基本認識のもとで「神話博しまね」を開催します。

「感じる」観光スタイルの提案

神話の舞台は、目を見張るような建築物・構造物などで構成されていない場合も多く、一見ただけではその魅力が「伝わりにくい」ものです。そのため、名所旧跡を「見る」だけの観光スタイルでは対応できない面があります。

神々の国しまね実行委員会は、そうした従来型の観光スタイルとは異なった、「伝わりにくい」神話の魅力を、ゆかりの地で「感じる」ことができるような、独自の観光のあり方を探っていきます。

神話の魅力を体感していただける観光スタイルを具体的に提案することで、多くの方々がその魅力を理解しリピーターになっていただけるような取り組みを推進していきたいと考えます。

未来へ思いをつなぐ

古（いにしえ）から現代まで連綿と受け継がれた、豊かな自然や伝統文化。その中で育まれた温かい人間関係や地域社会。現代社会で忘れられつつある「絆」や「縁」。

古き良き「日本の原風景」や人の心を見つめ直し、いま在ることに感謝し、未来へつなげていきたい。

「しまね」に生きる私たちの思いを、「神話博しまね」を通じて広げていくことができれば幸いです。

「しまね」に暮らす すべてのひとのところが豊かでありつづけ、

「しまね」に訪れる すべてのひとのところが豊かになりますように。

神々の国しまね実行委員会（島根県商工労働部観光振興課内）

TEL 0852-22-6757 FAX 0852-22-5580

E-mail shinwa@pref.shimane.lg.jp